

阿蘇草原再生レポート

活動報告書2010



目次

はじめに	P 1
1. 協議会の取り組みによる成果(阿蘇草原再生への貢献)	P 2
2. 活動結果報告	P 4
活動報告(1) 様々な形で牧野の利用と維持管理を続ける	P 7
活動報告(1) 多様な動植物でにぎわう草原を再生する	P19
活動報告(3) 草原に理解、愛着を持つ人を増やす	P23
活動報告(4) 野草資源を活用する	P37
活動報告(5) 草原と結びついた観光を進める	P40
阿蘇の草原をフィールドにした研究者の活動	P44
阿蘇草原のいとなみと協議会の1年(平成22年度)	P46
3. 阿蘇草原再生協議会の活動	P48
(1) 組織	
(2) 阿蘇草原再生全体構想	
(3) 「活動計画」と「活動結果報告」のしくみ	
(4) 阿蘇草原再生募金とその仕組み	
(5) 活動年表	
参考資料	
阿蘇草原再生協議会設置要綱	
阿蘇草原再生協議会運営細則	
阿蘇草原再生協議会募金規約	
阿蘇草原再生募金委員会設置・運営規則	
協議会構成員名簿	
コラム	
1. 牛の採食行動を活用した輪地切り(モーモー輪地切り)	P12
2. 構成員の牧野を紹介します。	P14
3. 阿蘇草原キッズ・プロジェクトに取り組んでいます。	P29
4. 阿蘇ジオパークのなかの草原	P42
5. 阿蘇草原再生募金の活動開始 草原再生に向けて多くの方からご支援を いただいています。	P47

「阿蘇草原再生レポート」の発行について

本レポートは、協議会構成員による草原再生に向けた活動について、前年度1年間の活動状況ととりまとめて報告するものです。2009年8月に第1号を発行し、今回で3号目となります。

構成員の方々から提出された活動結果報告から、全体の活動状況や全体構想で示した取り組みの進捗等を把握し、それぞれの取り組みのさらなる展開や、草原保全・再生に向けた活動の輪を広げていくために活用していきます。

はじめに

世界最大級のカルデラ地形の上に広がる広大で優美な阿蘇の草原。

この草原は、採草、放牧、野焼きなど地域の人々の営みによって生まれ、自然と人間との共生により引き継がれてきました。

農業・畜産と密接な関わりのなかで継続的に維持され、人々の生活に恵みをもたらしてきた草原は、草原特有の動植物の宝庫であり、生物多様性保全の場としてかけがえのない価値を有しています。また、四季折々に変化する草原や牛馬の放牧風景は、国立公園阿蘇の景観を構成する重要な要素であり、年間 1,900 万人もの観光客を魅了しています。阿蘇の草原は九州中部から北部にある 6 本の一級河川の源流域にあたり、さらに雨水が地下浸透しやすい環境にあることによりもたらされる豊富な地下水は、熊本市民をはじめ九州中・北部、約 230 万人もの人々の暮らしにうおいを与えています。

様々な価値を有する草原が今、危機に瀕しています。生活様式の変化や畜産の低迷などにより、近年、面積の減少や藪化などの荒廃が目立つようになり、人々により守り継がれてきた豊かな自然に恵まれた草原が、その姿を変えつつあります。

このような中、かけがえのない阿蘇の草原を未来に引き継いでいくため、草原に関わる様々な団体や個人が集まって、平成 17 年 12 月に阿蘇草原再生協議会が設立されました。

協議会では、19 年 3 月に「阿蘇草原再生全体構想」を策定し、構成員はその目標や考え方を共通認識として、様々な取り組みを進めています。

平成 22 年度は、多くの重大な出来ごとがありました。宮崎県で発生した口蹄疫に関しては、本レポートに掲載された活動の中にも影響を受けたものが少なくありません。また、「阿蘇ゆるっと博」のスタートを翌日に控えた本年 3 月 11 日には東日本大震災が発生し、日本中に大きな爪痕を残しましたが、身近な人たちのつながりの大切さを見直すきっかけともなったのではないのでしょうか。

阿蘇草原再生協議会では、「阿蘇草原再生募金」の活動がスタートし、これまで以上に幅広い方々からのサポートの下に草原再生の取り組みを進めていく体制が整いました。本レポートにより、多くの方々にこの 1 年間の阿蘇の草原保全・再生に向けた活動状況を知っていただき、さらなる活動展開や理解促進につながっていくことを期待しています。

平成 23 年 9 月
阿蘇草原再生協議会
会長 高橋 佳孝

九州の中の阿蘇地域

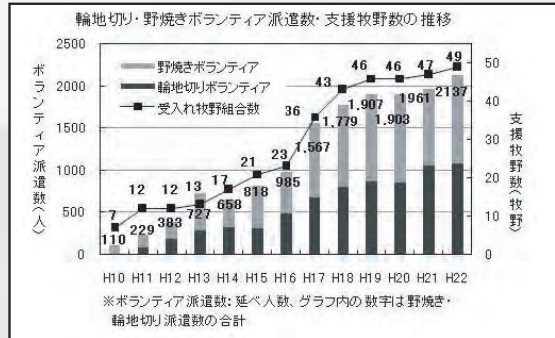


阿蘇の草原は 6 本の一級河川の源流域にあたり、230 万人の飲み水がまかなわれている。

③ 支援ボランティア等の活躍

●野焼き・輪地切り等の維持管理作業へのボランティア参加数：延べ2,258人・日

・阿蘇グリーンストックの野焼き支援ボランティアの派遣数は年々増え続けており、平成22年度は延べ2,137人となりました。これにトラスト地などの野焼き等管理への参加を加えると、延べ2,258人のボランティアが活躍しています。



●ボランティアによる野焼き面積：5,514ha

NO	事業・活動名	野焼き面積 (ha)	人数 (人)
7	2010年度秋の輪地切り・輪地焼き支援ボランティア活動	5,500	2,137
8	野焼き及び輪地切り支援ボランティア活動		
10	阿蘇花野再生プロジェクト	5	70
11	花咲盛における生物多様性保全活動	9	51
	合計	5,514	2,258

④ 阿蘇の草原への理解の拡大

●草原環境学習関連の活動への参加：延べ12,300人以上

・小学生から一般の人々まで、草原環境学習等への参加人数は12,300人以上、前年度と比較して約17%の増加です。

参加者のうち小中高生が約9割を占めています。阿蘇草原キッズ・プロジェクトをはじめ、構成員間の連携により実施する子どもたちを対象としたプログラムの実施が増えていきます。



NO	事業・活動名	参加者数 (人)		
		小中高生	一般	合計
1	原野の恵み、先祖の知恵を木落原野の未来へ※1	(6)	0	(6)
10	阿蘇花野再生プロジェクト	0	93	93
11	花咲盛における生物多様性保全活動	0	170	170
13	阿蘇の火山体験学習 (H22年度)	5,210	622	5,832
14	草原について学ぼう! (H22年度)	119	0	119
15	草原再生事業「子どもたちによる野焼き体験学習」※2	(45)	0	(45)
16	体験旅行者に阿蘇の自然と文化を伝えていく	3,319	0	3,319
17	阿蘇エコツアー (修学旅行)	65	20	85
18	阿蘇の草原を守るために「野草紙を作ろう」プロジェクト※3	(63)	564	(63)
19	出前講座：阿蘇の草原を未来へつなごう	426	0	426
20	草原環境学習 出前講座の実施	39	0	39
21	「阿蘇の草原キッズになろう!」【秋編】【野焼き編】※4	(28)	152	(28)
27	阿蘇エコツアーリズムの推進	0	92	92
28	阿蘇人ツアーリズムの実施	1,461	0	1,461
	合計	11,355	1,014	12,369

※1：18「阿蘇の草原を守るために「野草紙を作ろう」プロジェクト」と重複
 ※2 ※4：14「草原について学ぼう! (H22年度)」と重複
 ※3：19「出前講座：阿蘇の草原を未来へつなごう」、20「草原環境学習 出前講座の実施」と重複

上記の他に、

●年間を通じた環境学習の取り組みも実施されています。

・「モデル校における年間プログラムの実践」では、「阿蘇草原キッズ・プロジェクト」の一環として、2つのモデル校を設け、総合的な年間カリキュラムを試行しています。



阿蘇火山博物館や阿蘇グリーンストックでは、約9,000名/年もの修学旅行生を受け入れています。



モデル校の取り組みは、新しい環境学習のかたちを模索する活動として注目されています。